



## トラブルシューティング トレース設定値の設定

[Troubleshooting Trace Settings] ウィンドウでは、トラブルシューティング トレースの事前設定値を設定する対象のサービスを選択できます。この章では、Cisco Unified Serviceability に存在するサービスのトラブルシューティング トレース設定値を設定またはリセットする方法を説明します。



**(注)** 長期間にわたってトラブルシューティング トレースを使用可能にすると、トレース ファイルのサイズが大きくなり、サービスのパフォーマンスが低下する可能性があります。

### 手順

**ステップ 1** Cisco Unified Serviceability で、[Trace] > [Troubleshooting Trace Settings] の順に選択します。

**ステップ 2** [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、トラブルシューティング トレース設定の対象とするサーバを選択し、次に [Go] をクリックします。



**(注)** サービスのリストが表示されます。ノード上でアクティブにされていないサービスは、N/A と表示されます。

**ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。

- [Server] ドロップダウン リスト ボックスで選択したノードの特定サービスを指定するには、[Services] ペイン (たとえば [Database and Admin Services]、[Performance and Monitoring Services]、[Backup and Restore Services] など) にあるサービスのチェックボックスをオンにします。  
この操作は、[Server] ドロップダウン リスト ボックスで選択したノードのみに影響を与えます。
- 次のチェックボックスのいずれかをオンにします。
  - **Check All Services** : [Server] ドロップダウン リスト ボックスで選択した現在のノード上のサービスに対して、すべてのチェックボックスを自動的にオンにします。
  - **Check Selected Services on All Nodes** : [Troubleshooting Trace Setting] ウィンドウで、特定のサービスのチェックボックスをオンにできます。この設定は、クラスタ内でそのサービスがアクティブにされているすべてのノードに適用されます。

## ■ 関連項目

- **Check All Services on All Nodes** : クラスタ内のすべてのノードのすべてのサービスに対して、すべてのチェックボックスを自動的にオンにします。このチェックボックスをオンにすると、[Check All Services] チェックボックスと [Check Selected Services on All Nodes] チェックボックスが自動的にオンになります。

**ステップ 4** [Save] ボタンをクリックします。

**ステップ 5** 1 つ以上のサービスに対してトラブルシューティング トレースを設定した後で、元のトレース設定を復元できます。元のトレース設定を復元する場合は、次のボタンのいずれかをクリックします。

- **Reset Troubleshooting Traces** : [Server] ドロップダウン リスト ボックスで選択したノード上のサービスに対して、元のトレース設定を復元します。このボタンはアイコンとしても表示され、クリックできます。
- **Reset Troubleshooting Traces On All Nodes** : クラスタ内のすべてのノード上のサービスに対して、元のトレース設定を復元します。

リセット ボタンをクリックすると、ウィンドウが更新され、サービスのチェックボックスがオフになった状態で表示されます。

---

#### 追加情報

P.8-2 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [トレースの設定 \(P.7-1\)](#)
- [トレースについて \(P.6-1\)](#)